D'Souza (Eds.), The continuing demographic transition (pp. 94-110). Oxford: Clarendon Press.

Drago, R., & Williams, J. (2000). A half-time tenure-track proposal. Change: The Magazine of Higher Learning, November/December, 46-51.

Fletcher, J.K. (1999). Disappearing acts: Gender, power, and relational practices at work. Cambridge, MA: MIT Press.

Folbre, N. (1994). Who pays for the kids? Gender and the structures of constraint. New York, NY: Routledge.

Fretts, R. C., & Usher, R. H. (1997). Causes of death in women of advanced maternal age. Obstetrics & Gynecology, 89(1), 40-45.

Fukuyama, F. (2000). The great disruption: Human nature and reconstitution of the social order. New York, NY: Touchstone Books.

Garey, A.I. (1999). Weaving work and motherhood. Philadelphia, PA: Temple University Press.

Gilbert, W., Nesbitt, T., & Danielson, B. (1999). Childbearing beyond age 40: pregnancy outcome in 24,032 cases. Obstetrics & Gynecology, 93(1), 9-14.

Glass, J. & Fujimoto, T. (1995). Employer characteristics and the provision of family responsive policies. Work and Occupations, 22(4), 380-411.

Griffin, M., & Panak, W. (1998). The economic cost of infertility-related services: an examination of the Massachusetts infertility insurance mandate. Fertility and Sterility,70(1), 22-29.

Heck, K., Schoendorf, K., Ventura, S., & Kiely, J. (1997). Delayed childbearing by education level in the United States, 1969-1994. Maternal and Child Health Journal, 1(2), 81-88.

Henshaw, S.K., & Torres, A. (1994). Family planning agencies: Services, policies, and funding. Family Planning Perspectives, 26, 52-82.

Hochschild, A.R. (1997). The time bind: When work becomes home and home becomes work. New York, NY: Metropolitan Books.

Judiesch, M.K., & Lyness, K.S. (1999). Left behind? The impact of leaves of absence on managers' career success, Academy of Management Journal, December, 641-651.

Kelsey, J., & Horn-Ross, P. (1993). Breast cancer: Magnitude of the probem and descriptive epidemiology. Epidemiological Review, 15, 7-16.

Kiser, C., Grabill, W., & Campbell, A. (1968). Trends and variations in fertility in the United States. Cambridge, MA: Harvard University Press.

Kotch, J. (Ed.). (1997). Maternal and child health: programs, problems, and policy in public health. Gaithersburg, MD: Aspen Publishers.

Magalini, S. I., & Magalini, S. C. (Eds.). (1997). Dictionary of medical syndromes (4 th ed). Philadelphia: Lippincott-Raven.

Moen, P. (2001). The career quandary. Reports on America, Washington, D.C.: Population Reference Bureau, February.

National Center for Chronic Disease Prevention and Health Promotion. (1999). 1997 Assisted reproductive technology success rates: National summary and fertility clinic reports. Atlanta, GA: Author.

Notestein, F. W. (1950). The population of the world in the year 2000. Journal of the American Statistical Association, 45(251), 335-45.

Nesbitt, D. E., Bythell, V., & Redfern, N. (1999). Anaesthetic management of caesarean section in an elderly parturient with pre-eclampsia. Anaesthesia, 54 879-898.

Osterman, P. (1995). Work/family programs and the employment relationship. Administrative Science Quarterly, 40(4), 681-700.

Planned Parenthood. (2000). America's Family Planning Program: Title X. [On-line]. Available World Wide Web: http://www.plannedparenthood.org/library/FAMILYPLANNINGISSUES/TitleX_fact.html

Rindfuss, R., Morgan, S. P., & Swicegood, G. (1988). First Births in America: Changes in the timing of parenthood. Berkeley, CA: University of California Press.

Schmidt-Sarosi, C. (1998). Infertility in the older woman. Clinical Obstetrics and Gynecology, 41(4), 940-950.

Scholz, H., Haas, J., & Petru, E. (1999). Do primiparas aged 40 years or older carry an increased obstetric risk? Preventive Medicine, 29(4), 263-266.

Schor, J.B. (1998). The overspent American: Upscaling, downshifting, and the new consumer. New York, NY: Basic Books.

Spain, D., & Bianchi, S.M. (1996). Balancing act: Motherhood, marriage and employment among American women. New York, NY: Russell Sage Foundation.

Strope, L. (2001). 28th anniversary of Roe vs. Wade. Associated Press, January 22, [on-line] Available World Wide Web: http://www.speakout.com/Activism/Abortion/].

Thompson, C.A., Beauvais, L.L., & Lyness, K.S. (1999). When work-family benefits are not enough: The influence of work-family culture on benefit utilization,

organizational attachment, and work-family conflict, Journal of Vocational Behavior, 54, 392-415.

Van Horn, S. (1988). Women, work, and fertility. New York, NY: New York University Press.

van Katwijk, C., & Peeters, L. (1998). Clinical aspects of pregnancy after the age of 35 years: a review of the literature. Human Reproduction Update, 4(2), 185-194.

Ventura, S. J., Martin, J.A, Curtin, S. C., Mathews, T. J., & Park, M.M. (2000). Births: Final Data from 1998. National Vital Statistics Report: Vol. 48, No. 3. Hyattsville, MD: National Center for Health Statistics, 2000.

Ventura, S., Mosher, W., Curtin, S., Abma, J. Henshaw, S. (1999). Highlights of trends in pregnancies and pregnancy rates by outcomes: estimates for the United States, 1976-96. Vol. 47, No. 29. Hyattsville, MD: National Center for Health Statistics.

Ventura, S., Taffel, S. Mosher, W., Wilson, J., & Henshaw, S. (1995). Trends in pregnancies in the United States, 1980-92: Vol. 43, No. 11. Hyattsville, MD: National Center for Health Statistics.

Well-Connected Report: Infertility in Women. (1998). What are fertility treatments? [On-line] Available World Wide Web: http://my.webmd.com/content/dmk_article_396153

Whyte, W.H. Jr. (1956). The organization man. New York, NY: Simon & Shuster.

Williams, J. (1999). Unbending gender: Why work and family conflict and what to do about it. New York, NY: Oxford University Press.

Women's Bar Association of Massachusetts, Employment Issues Committee (2000). More than part-time: The effect of reduced hours arrangements on the retention, recruitment and success of women attorneys. Boston, MA: Women's Bar Association of Massachusetts [On-line] Available World Wide Web: http://www1.law.com/ma/wbareport.shtml

2. アメリカの育児サービスの利用状況

ここではThe Urban Institute によって、アメリカ全国およびアラバマ、カリフォルニア、フロリダ、マサチューセッツ、ミシガン、ミネソタ、ミシシッピ、ニュージャージー、ニューヨーク、テキサス、ワシントン、ウィスコンシンの 12 州を対象にして行われたNational Survey of America's Families 調査（注：4万4千以上の世帯を対象とし、アメリカ全国で、代表性を持ったサンプルを抽出して行われた。国全体および選択された 12 州において、調査を行った。調査内容は、医療サービス、所得補助、職のためのトレーニング、育児サービス、他の社会サービスについてである）に基づいて、育児サービスの利用やコストについての概要をまとめる。

まず、働く母親を持つ子どもの保育状況をみてみる（表 III-2-1)。
乳幼児の 73%が、母親の働く間、親以外の人から、保育サービスを受けていた。
27%が親戚、22%が保育所、17%が家庭保育所、７%はベビーシッター。
39%がフルタイムでケアを受けていた。親以外によるケアの平均時間は、週 25 時間であった。34%が、２つ以上のケアを使っている。

年齢よってみると、保育所の利用は，1 歳未満では、15%であるのに対し、2 歳では 27%と増えている。親戚・親によるケアは、年齢の高いほうが、少なくなっている（1 歳未満では、親 33%、親戚 32%、１～２歳では親 23%、親戚 26%)

人種・エスニックグループによっても、違いが見られる。保育所は、ヒスパニック系の子どもに比べ、黒人と白人に多く使われている（ブラック 30、ホワイト 24、ヒスパニック 10)。親戚によるケアがもっとも多いのはヒスパニックである（39%、ブラック 27%、ホワイト 25%)。ブラックの子どもは、ホワイト（36%）やヒスパニック（34%）の子どもに比べ、フルタイムでケアされる割合が多い（58%)。

母親の教育レベルによってみると、高卒未満の母親では６%であるのに対し、大卒の母親の子どもでは 27%であった。親戚による小さな子どものケアは、教育レベルの高い母親の子どもでは低く 16%、高卒未満の子どもでは 50%であった。
保育所の利用時間は、違わなかった。

収入別にみると、貧困レベルを 100%下回っている家族、貧困レベルの 100 から 200%、200%以上の３グループに分けてみると、高収入家庭では、センターを使う子どもは、高収入家庭の方が、貧困家庭よりも多くなっている。親戚によるケアは、低収入家庭に（39%）多く使われ、貧困家庭では 28%、高収入家庭では 23%であった。また、収入レベルの高い家族の子どもの方が、親以外のケアで過ごす時間が長い。

上に示したものは、多様性に富むアメリカ全国の「平均」にしか過ぎず、州によっても、地域性、どのようなサービスがあるのか、人種・エスニック構成などが異なるため、違いがあると考えられる。

育児サービスのタイプ別の利用状況をみてみる（表 III-2-2)。全体（12 州）を総合してみると、乳幼児（3 歳未満）では、親や親せきによる保育を受けている割合が高く、どちらも 27%である。３，４歳では、センター（保育所）の割合が 45%と高くなり、親や親

戚による保育はあわせて35%となっている。家庭保育の割合は１４%で、3歳未満の場合とそれほど違いがなかった。

3歳未満の子どもについては、全体で最も多く使われているのはセンタータイプではないが、州によっては、センターを利用している割合が高いところもある。ミネソタとミシガンは、4分の1以上がセンタータイプをつかっていた(29%、28%)。カリフォルニアは、一番その割合が低く９%、ニューヨークやニュージャージーも比較的少なく、それぞれ13%、14%であった。家庭保育の割合は、一番高い割合で使われているのがテキサスで20%、一番低いところはマサチューセッツで９%であった。ほとんどの州において、子どもの3分の1は、親せきによるケアを受けているが、その割合は、特にミシシッピで高く38%、逆にフロリダ(18%)やミネソタ(14%)では低い。3歳未満の子どもが、親によるケアを受けている割合はカリフォルニアで一番高く、ミシシッピ、ミシガン、テキサスでは低くなっている(それぞれ19, 21, 21%)。

3，4歳の子どもについては、全体でみると、センタータイプのケアが一番多く使われている。親せきや親によるケアは少ないが、州によってはその割合が高いところもある。ミシシッピ、アラバマは、センタータイプが特に高く(60、58%)、カリフォルニアとウィスコンシンでは低い(31%、33%)。また、3，4歳で家庭保育所を使っている割合は、ウィスコンシンで高く2割、低いのテキサスの7%である。

3、4歳の子どもが親戚によってケアされている割合は、アラバマでもっとも高く24%、ミネソタではもっとも低い11%であった。

ワシントンとマサチューセッツでは、3割が親によってケアされている。アラバマやミシシッピでは、親によるケアの割合が低く、それぞれ8%、10%であった。

一般的に考えられているような、「乳幼児はインフォーマル・ケア、大きい子どもはフォーマル・ケア」を受けている、というの見方は、必ずしもこのデータでは支持されない。また、収入が低い家庭の子どもはインフォーマル・ケアで、収入の高い子どもはセンターなどのフォーマル・ケアを使っている、というパターンも、一貫して見られるものではない。例えば、マサチューセッツでは、収入の低い家庭の子どもがセンターをもっとも多く使っており、カリフォルニアとマサチューセッツでは、収入の高い家庭の子どもに、親によるケアの割合が多くなっている。

次に、保育を受けている時間を比較してみる(表III-2-3)。全体では、母親が働いている就学前の子どもの41%が、週35時間以上の保育を受けていた。25%が15〜34時間、16%が15時間未満であった。18%は、親以外による保育を受けていなかった。州別にみると、次のようなパターンが見られる。

- 南部の州、ミシシッピ(59%)、アラバマ(56%)では、フルタイムで保育を受けている子どもの割合が一番高い。テキサスも、半数近くであった(46%)。
- カリフォルニア、マサチューセッツ、ワシントンでは、フルタイム保育の割合が低い。週35時間以上の子どもは3割以下である。
- カリフォルニアとワシントンでは、親以外の保育を受けていない子ども、受けていても短時間である割合が一番高い。親以外の保育を受けない子どもの割合が一番低いのはミシガンである。

母親が勤務している子どもをみると、全体では、就労している母親を持つ子供の41%がフルタイムで保育サービスを受けているが、フルタイムの母親に限ると、52%である。母親がフルタイムで、子どもがパートタイムで保育を受けている割合は18%である。州別にみると、母親の勤務状況を考慮しても、ミシシッピ（65%）とアラバマ（64%）では、フルタイム保育を受けている子どもの割合が一番高い。この割合が一番低いのは、カリフォルニア、マサチューセッツ、ワシントンである。また、カリフォルニア（33%）とワシントン（27%）では、全く保育を受けていない子どもの割合が一番高い。

年齢別によるパターンをみると、３歳未満の子どもにくらべて、３歳と４歳では、保育を受ける子どもの割合が多くなっている。全体でみると、３、４歳の子どもの方が３歳未満にくらべ、フルタイム保育もパートタイム保育も多くなっている。(44%と 39%、28%と 23%)。

これらのことについて、州別にみると、いろいろな違いが見えてくる。

・乳幼児：　ミシシッピ、アラバマ、テキサスで、３歳未満の子どもの半分が週35時間以上、保育を受けている。反対に、カリフォルニア、マサチューセッツで週35時間以上受けているのは、４人に１人である。小さい子どもで保育をうけていない子どもの割合が一番高いのは、カリフォルニアである（35%)。ミシガン、テキサス、ミシシッピは、その割合が低い（２割以下)。

・３，４歳：　ミシシッピ、アラバマで、フルタイム保育をうけている人が 67%、64%で、カリフォルニア、マサチューセッツ、ワシントンの２倍になっている。ほとんどの州で、３，４歳の母親が就労している子どもで、全く保育を受けていない子どもは、ほとんどいない。アラバマでは、特に低く、４%であった。その他、フロリダ、ミシシッピ、ニューヨークでも、１割に満たない。一方、カリフォルニア、ワシントンでは、２割以上が、親以外の保育を受けてない。

参考文献

Capizzano, Jeffrey, Gina Adams, and Freya Sonenstein, 2000. Child Care Arrangements for Children Under Five: Variation Across States, New Federalism: National Survey of America's Families. Urban Institute, Series B. No. B-7, March 2000.

Capizzano, Jeffrey and Gina Adams, 2000. The Hours that Children Under Five Spend in Child Care: Variation Across States, New Federalism: National Survey of America's Families. Urban Institute, Series B. No. B-8, March 2000.

Ehrle, Jennifer, Gina Adams, Kathryn Tout, 2001, Who's Caring for our Youngest Children? : Child Care Pattens of Infants and Toddlers, The Urban Institute, Occasional Paper Number 42.

表 III-2-1: 子ども・親の属性別、保育サービスの利用状況

	センター	家庭保育	ナニー・ベビーシッター	親戚	親	35 時間以上	平均時間	2 つ以上のタイプ利用
全体	22	17	7	27	27	39	25	34
（週平均時間）	33	32	23	26				
子どもの年齢								
1 歳未満	15	13	7	32	33	32	22	28
1 歳	23	16	9	27	25	40	26	32
2 歳	27	21	4	23	26	43	26	38
人種・エスニックグループ								
ホワイト	24	17	8	25	27	36	24	33
ブラック	30	18	3	27	22	58	31	34
ヒスパニック	10	14	5	39	32	34	23	34
教育レベル								
高卒未満	6	12	6	50	27	33	23	21
高卒	22	17	5	30	27	40	25	35
大学	27	17	11	16	30	39	24	34
家庭の収入別								
貧困レベル 100%未満	18	17	1	28	35	34	21	26
100～200%以上	16	12	5	39	28	37	23	31
200%以上	25	18	8	23	26	41	26	36

出典：Who's Caring for our Youngest Children? : Child Care Pattens of Infants and Toddlers, The Urban Institute, Appendix, Tables A2 ～A6。

表 III-2-2 保育サービスの利用状況(子どもの年齢別、州別)

	全体	AL	CA	FL	MA	MI	MN	MS	NJ	NY	TX	WA	WI
5歳未満													
センター	**32**	**39**	**19**	36	27	33	**38**	38	**25**	27	35	27	**25**
家庭保育所	**16**	14	16	14	**10**	15	17	13	14	12	11	13	**20**
親戚	**23**	27	26	18	25	28	**13**	**32**	27	24	**27**	19	26
親	**24**	**17**	**34**	26	**32**	20	26	**15**	29	25	20	**33**	24
ベビーシッター	**6**	3	5	7	8	4	6	**2**	4	12	6	8	5
総数	4653	289	288	318	343	322	383	278	343	308	312	305	658
3歳未満													
センター	**22**	*25*	*9*	*24*	*20*	28	*29*	*24*	*13*	*14*	*24*	*21*	*19*
家庭保育所	**17**	17	14	16	**9**	15	19	*17*	14	12	15	13	20
親戚	**27**	30	28	**18**	27	*33*	**14**	*38*	30	*31*	*32*	*23*	28
親	**27**	*24*	*42*	*33*	35	21	29	19	*37*	*32*	21	34	*28*
ベビーシッター	**7**	4	7	9	9	2	9	3	6	11	8	10	4
総数	2588	150	150	169	181	169	206	144	187	160	162	173	354
3歳～4歳													
センター	**45**	*58*	*31*	*54*	*36*	40	*50*	*60*	*44*	*46*	*49*	*37*	*33*
家庭保育所	**14**	9	19	10	**10**	14	15	*8*	15	12	**7**	13	**20**
親戚	**17**	**24**	23	17	22	*21*	**11**	*21*	23	*14*	*21*	*14*	**22**
親	**18**	*8*	*25*	*15*	**27**	18	22	**10**	*16*	*15*	19	**32**	18
ベビーシッター	**6**	2	3	4	6	6	2	0	1	13	5	4	6
総数	2265	139	138	149	162	153	177	134	156	148	150	132	304

出典:Child Care Arrangements for Children Under Five: Variation Across States Urban Institute, Series B. No. B-7, March 2000.

太字:国の平均と有意差がある。(.05) 斜体:その州で、年齢層による有意差がある。(.05)

表 III-2-3 保育サービスの利用時間(子どもの年齢別、母親の勤務状況別、州別)

	全体	AL	CA	FL	MA	MI	MN	MS	NJ	NY	TX	WA	WI
5歳未満全員													
なし	**18**	**14**	**30**	20	22	**13**	17	14	24	17	15	**26**	17
1～14時間	**16**	12	18	13	**22**	19	16	**10**	14	19	15	16	18
15～34時間	**25**	**19**	23	23	27	28	27	**17**	25	20	23	25	26
35時間以上	**41**	**56**	**29**	**44**	**29**	40	39	**59**	38	44	46	33	39
総数	4823	286	288	317	339	320	378	277	341	305	309	304	656
母親フルタイム勤務													
なし	**17**	12	**27**	20	21	14	20	13	23	19	14	**33**	13
1～14時間	**12**	10	17	**6**	14	15	10	10	12	10	13	9	17
15～34時間	**18**	14	19	18	24	19	17	12	20	14	22	17	22
35時間以上	**52**	**64**	**38**	55	**40**	52	52	**65**	45	57	52	**41**	49
総数	3399	229	210	228	198	197	258	227	240	197	247	206	451
3歳未満													
なし	***21***	*21*	**35**	*28*	*30*	**15**	*21*	17	***32***	*24*	15	27	21
1～14時間	**17**	11	20	12	*15*	21	18	**10**	12	22	14	15	20
15～34時間	***23***	19	19	21	29	26	26	19	25	***16***	25	26	23
35時間以上	**39**	*49*	**26**	*38*	**27**	38	35	***54***	***31***	*39*	45	32	36
総数	2572	148	150	168	179	168	205	143	186	158	160	173	353
4～5歳未満													
なし	**13**	***4***	**23**	***8***	*12*	11	*11*	9	*11*	*9*	16	**25**	13
1～14時間	**14**	12	16	14	***32***	15	14	9	17	15	16	18	15
15～34時間	**28**	**19**	28	27	25	30	29	**15**	24	*26*	21	22	30
35時間以上	***44***	***64***	33	*52*	**31**	43	45	***67***	*47*	*50*	47	35	42
総数	2251	138	138	149	160	152	173	134	155	147	149	131	314

出典:The Hours That Children Under Five Spend in Child Care: Variation Across States、Urban Institute, Series B. No. B-8, March 2000.

太字:国の平均と有意差がある。(.05) 斜体:その州で、年齢層による有意差がある。(.05)

3. 子どもにかかる費用

アメリカでは、1960年以来、Department of Agricultureによって、子どもが生まれてから１７歳になるまでの間、子どもにかかるコストの推定されている。ここでは、1999年における夫妻およびひとり親家庭についての報告を要約する。

夫妻家族については、３つの収入層、ひとり親家族については、２つの層について求めた。物価や消費パターンの違いをある程度調整するために、夫妻家族については、西、北東、南、中西部の４地域の都市部および田舎部およびアメリカ全国の計算をした。1 人親家族については、数が少ないためサンプルサイズの制限があったため、アメリカ全体についてのみ求めた。子どもにかかる費用は、住宅、食費、交通費、衣服、医療費、保育と教育、その他について求めた。

地域の区切り方は次の通りである。

・西部：アラスカ、アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、ハワイ、アイダホ、モンタナ、ニューメキシコ、オレゴン、ユタ、ワシントン州

・北東部：コネティケット、メイン、マサチューセッツ、ニューハンプシャー、ニュージャージー、ニューヨーク、ペンシルバニア、ロードアイランド、バーモント

・南部：アラバマ、アーカンサス、デラウエア、コロンビア地区、フロリダ、ジョージア、ケンタッキー、ルイジアナ、メリーランド、ミシシッピ、ノースカロライナ、サウスカロライナ、テネシー、テキサス、バージニア、ウエストバージニア

・中西部の州：イリノイ、インディアナ、アイオワ、カンサス、ミシガン、ミネソタ、ミズーリ、ネブラスカ、ノースダコタ、オハイオ、サウスダコタ、ウィスコンシンが含まれる。

・田舎部：Metropolitan Statistical Area 外の人口 2500 人未満の地域。

このデータは、1990-92 年の消費者調査（面接調査の部分）に基づき、夫妻および一人親家族における子育てコストを、消費者インデックスを利用して 1999 年のドル値で計算したものである。Bureau of labor statistics によるこの調査は、全国レベルで消費に関する最も総合的なデータである。子育てに関わる出費の計算は、17 歳以下の子どもが最低一人いること、子どもの数が６人以下であること、他の親戚やその他の者が同居していないこと、収入に関する情報を全て報告していることの条件を満たした夫妻家族 12850 世帯および一人親家族 3395 世帯を選択し、計算した。

世帯と子どもにのみかかる費用は、収入レベル、家族の人数、末子年齢をコントロールし、多変量解析を行なって求めた。ふたり親家族の平均である２人の子どものいる家庭を選択した。子どもの年齢は、0～2 歳、3～5 歳、6～8 歳、9～11 歳、12～14 歳、15～17 歳に分け、それぞれについて計算した。

また、費用の区分は次の通りである。

・住居費：ローン返済の利子分、固定資産税、家賃、維持費、修繕費、保険）光熱費（ガス、電気、燃料、電話、水道）、家具や家財道具（家具、床、電気製品等）（住宅ローン返済の借入金分の返済は、貯蓄に分類されるため、含まれていない。）

・食費：食料品、酒類をのぞく飲料、食料品店、コンビニエンスストア、専門店で購入し

たもの。フードスタンプによって購入した分、外食、学校給食など

・交通費：新車、中古車購入にかかった総費用、ガソリン、維持費、修理費、保険、公共の交通機関の利用費

・衣服費：子どものもの（オムツ、シャツ、ズボン、洋服、スーツ、靴、クリーニング、修繕費、その収納費）

・医療費：保険でカバーされない医療費、処方箋による医薬品、保険料の自己負担分

・保育及び教育費：デイケアおよび必要品、ベビーシッター費、小学校および高等教育の月謝、本や資料費

・その他：本、娯楽、ケア用品

・ここには含まれない費用：ここで示した費用には、出産前の検診、出産費用は含まれていない。保険なしの場合、平均して普通分娩で 7090 ドル、帝王切開で 11450 ドルである。また 17 歳以上の子どもにかかる主な費用は大学への費用であり、College Board(1999)の統計によると、平均授業料は、3274 ドル、私立大学で 12894 ドル、生活費は公立の大学で 4533 ドル，私立の４年生大学で 5224 ドル、２年制の大学では授業料が公立で 1587 ドル(1998)，私立 4471 ドルであった。そのほかに、(Phoenix Home Life Mutual Insurance Company,) 1996 年の調査によると、50 代の親の 47%は 21 歳以上になっても子どもに経済的援助をしているという結果を示している。これらの出費は考慮されていない。

計算の際、こども用の出費である子どもの服、保育費、教育費は、子どもの数で割ってある。1994 年の food plans of USDA により、食費が計算されている。このプランは全国食品消費調査を基にしており、家族内のひとりひとりについて年齢と世帯収入に応じた食品に費やす割合を求め、それによって、1990-92 年の世帯食費に当てはめ、子どもにかかる食費を計算した。同様に、医療費は、家族一人一人について 1987 年の全国医療費調査の医療費の割合に基づいて計算した。この調査では出費に対して、家族一人一人の医療費が占める割合を出している。その値をやはり 90-92 年の家庭医療費にあてはめ、子ども一人当りの医療費を計算した。

住居、交通、その他のものについては、このように参考にできる他のデータがない。そのため、USDA では、「ひとりあたり計算法」を使っている。世帯全体の住居費を人数で割っている。(他に、子どものいる世帯といない世帯の差によって計算する方法もあるが、これは問題が多すぎることがわかっているからである。) 交通費については、子どもに関連ない行動は除外して計算してある。

夫妻＋子ども２人の世帯の子どもにかかる費用の計算結果は、次のとおりである。

1．子育て費用は、収入レベルによってかなり違っている。子どもの年齢にもよるが、低収入家庭（税込み収入 36800 ドル以下）の場合は 6080～7150 ドル、中収入家庭（税込み収入 36800～61900 ドル）の場合、8450～9530 ドル，高収入家庭（税込み収入 61900 ドル以上）の場合は 12550～13800 ドルであった。

2．子どもにかかる費用のうち、一番大きく占めているのは住居費である。どの収入レベルでも 33 ～37%を占める。次に大きな割合を占めているのは食費で、子育て費用の

15～20%である。

3．コストは子どもが小さい方が低く、大きい方が高い。これは収入レベルに関わらずみられた傾向である。

3．コストは、西部、北東部、南部の都市部の順に高く、一番低いのは中西部の都市部と田舎部である。

表 III-3-1 はアメリカ全体について計算したものである。この表に示されているのは、子どもが２人いる場合の一番下の子どもにかかるコストであるが、上の子どもについても同額であるため、それぞれの年齢層の子どもにかかるコストを足し合わせれば、子供達にかかる費用が計算できる。子どもが２人いる家族に比べ、子どもが一人の家族については、1.24 をかけ、子どもが３人以上の場合は、合計に 0.77 をかける。実際に子どもが１人、2 人、３人の場合の計算を表 III-3-2 に示した。

また、United States Department of Agriculture の協力を得て、1960 年からのデータも入手することができた。（紙面の都合上、表は省略し、それをもとに作成したいくつかの図のみを掲載する。）図 III-3-1a と図 III-3-1b は、1960 年から 1988 年までの Low Price Level においての子どもにかかる費用全体をしめした。図 III-3-2a 2b は、Moderate Price Level のものである。図 III-3-3 は、Low Price Level の住宅費、図 III-3-4 は、Moderate Price Level の住宅費である。（ただし、High Price level のデータはもともと存在しないのか、あるいは入手不可能なのかはわからない。また、この場合の Price Level の具体的な定義についても、不明である。）グラフをみると、1960 年～1988 年については、どちらの層でも、０歳から 6 歳未満をみると、1 歳にかかるコストが一番たかく、2—3 歳にかかるコストが一番低い。6 歳から 17 歳では、年齢が高いほど、コストも高い。また、16 歳～17 歳のコストは、他の年齢のコストに比べ、この期間中、特に 1980 年代になってからの増加が著しい。住宅費だけを見ると，1 歳の子どもにかかる住宅費として計算されているものが、他と比べ、かなり高くなっていることがわかる。これについては、子どもが 1 歳のときに、住宅の購入などがより頻繁に行なわれている可能性も考えられる。

図 III-3-5～図 III-3-7 は、1989 年～1999 年の費用全体を、低収入層、中収入層、高収入層について示した。図 III-3-8～図 III-3-10 は住宅費、図 III-3-11～図 III-3-13 には保育・教育費、図 III-3-14～図 III-3-16 には食費を示した。1989 年から 1999 年の全体的な傾向は、上記でみられたそれ以前のものと似ている。保育・教育については、1993 年に大きく減り、その後、また増えつづけている（しかし、全体の費用は、それほど大きく影響していない）。食費は、子どもの年齢が高いほど、多くかかっている。

表 III-3-1　夫妻家族における子ども一人あたりの出費（1年間)、米国 1999

子どもの年齢	合計	住居費	食費	交通費	衣料費	医療費	保育・教育	その他
税込み収入：＄36,800未満(平均＄23,000)								
0～2歳	6080	2320	860	730	380	430	760	600
3～5歳	6210	2290	960	700	370	410	860	620
6～8歳	6310	2210	1240	820	410	470	510	650
9～11歳	6330	2000	1480	890	460	510	310	680
12～14歳	7150	2230	1560	1000	770	510	220	860
15～17歳	7050	1800	1680	1350	680	550	360	630
税込み収入：＄36,800-61900 (平均＄49000)								
0～2歳	8450	3140	1030	1090	450	560	1250	930
3～5歳	8660	3110	1190	1060	440	530	1380	950
6～8歳	8700	3030	1520	1180	480	610	890	990
9～11歳	8650	2820	1790	1250	530	660	580	1020
12～14歳	9390	3050	1800	1360	900	670	420	1190
15～17歳	9530	2620	2000	1720	800	700	730	960
税込み収入：＄61900以上 (平均＄92,700)								
0～2歳	12550	4990	1370	1520	590	640	1880	1560
3～5歳	12840	4960	1550	1500	580	620	2050	1580
6～8歳	12710	4880	1870	1610	630	700	1410	1610
9～11歳	12600	4670	2170	1680	690	760	750	1820
12～14歳	13450	4900	2280	1800	1140	760	750	1820
15～17歳	13800	4470	2400	2180	1030	800	1330	1590

表 III-3-2 子どもが１人、２人あるいは３人いる夫妻家族の子どもにかかる費用の計算例
(1999 年度の年収が 36,800 ドル から 61,900 ドルの家族)

子どもが一人の家族 子どもの年齢		子どもに関わる出費 (年間)
0-2		$10,480=(8,450 x1.24)
3-5		$10,740=(8,660 x1.24)
6-8		$10,790=(8,700 x1.24)
9-11		$10,730=(8,650 x1.24)
12-14		$11,640=(9,390 x1.24)
15-17		$11,820=(9,530 x1.24)
子どもが２人の家族 末子の年齢	他の子どもの年齢	子どもに関わる出費（年間)
0-2	16	$17,980= ($8,450 + $9,530)
3-5	16	$18,190= (8,660 + 9,530)
6-8	16	$18,230= (8,700 + 9,530)
9-11	16	$18,180 (8,650+ 9,530)
12-14	16	$18,920= (9,390 + 9,530)
15	16	$19,060= (9,530 + 9,530)
子どもが３人の家族 末子の年齢	他の子どもの年齢	子どもに関わる出費（年間)
0-2	13, 16	$21,070=[(8,450 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
3-5	13, 16	$21,240=[(8,660 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
6-8	13, 16	$20,840=[(8,700 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
9-11	13, 16	$21,230=[(8,650 + 9,390 +9, 530) x 0.77]
12	13, 16	$21,800=[(9,390 + 9,390 +9, 530) x 0.77]

参考文献

United States Department of Agriculture, 1999. Expenditures on Children by Families, 1999 Annual Report. Misc. Publication Number 1528-1998

2. アメリカの育児サービスの利用状況

ここではThe Urban Institute によって、アメリカ全国およびアラバマ、カリフォルニア、フロリダ、マサチューセッツ、ミシガン、ミネソタ、ミシシッピ、ニュージャージー、ニューヨーク、テキサス、ワシントン、ウィスコンシンの 12 州を対象にして行われたNational Survey of America's Families 調査（注：4万4千以上の世帯を対象とし、アメリカ全国で、代表性を持ったサンプルを抽出して行われた。国全体および選択された 12 州において、調査を行った。調査内容は、医療サービス、所得補助、職のためのトレーニング、育児サービス、他の社会サービスについてである）に基づいて、育児サービスの利用やコストについての概要をまとめる。

まず、働く母親を持つ子どもの保育状況をみてみる（表 III-2-1)。
乳幼児の 73%が、母親の働く間、親以外の人から、保育サービスを受けていた。
27%が親戚、22%が保育所、17%が家庭保育所、７%はベビーシッター。
39%がフルタイムでケアを受けていた。親以外によるケアの平均時間は、週 25 時間であった。34%が、２つ以上のケアを使っている。

年齢よってみると、保育所の利用は，1 歳未満では、15%であるのに対し、2 歳では 27%と増えている。親戚・親によるケアは、年齢の高いほうが、少なくなっている（1 歳未満では、親 33%、親戚 32%、１～２歳では親 23%、親戚 26%)

人種・エスニックグループによっても、違いが見られる。保育所は、ヒスパニック系の子どもに比べ、黒人と白人に多く使われている（ブラック 30、ホワイト 24、ヒスパニック 10)。親戚によるケアがもっとも多いのはヒスパニックである（39%、ブラック 27%、ホワイト 25%)。ブラックの子どもは、ホワイト（36%）やヒスパニック（34%）の子どもに比べ、フルタイムでケアされる割合が多い（58%)。

母親の教育レベルによってみると、高卒未満の母親では６%であるのに対し、大卒の母親の子どもでは 27%であった。親戚による小さな子どものケアは、教育レベルの高い母親の子どもでは低く 16%、高卒未満の子どもでは 50%であった。
保育所の利用時間は、違わなかった。

収入別にみると、貧困レベルを 100%下回っている家族、貧困レベルの 100 から 200%、200%以上の３グループに分けてみると、高収入家庭では、センターを使う子どもは、高収入家庭の方が、貧困家庭よりも多くなっている。親戚によるケアは、低収入家庭に（39%）多く使われ、貧困家庭では 28%、高収入家庭では 23%であった。また、収入レベルの高い家族の子どもの方が、親以外のケアで過ごす時間が長い。

上に示したものは、多様性に富むアメリカ全国の「平均」にしか過ぎず、州によっても、地域性、どのようなサービスがあるのか、人種・エスニック構成などが異なるため、違いがあると考えられる。

育児サービスのタイプ別の利用状況をみてみる（表 III-2-2)。全体（12 州）を総合してみると、乳幼児（3 歳未満）では、親や親せきによる保育を受けている割合が高く、どちらも 27%である。３，４歳では、センター（保育所）の割合が 45%と高くなり、親や親

戚による保育はあわせて35%となっている。家庭保育の割合は１４%で、3歳未満の場合とそれほど違いがなかった。

3 歳未満の子どもについては、全体で最も多く使われているのはセンタータイプではないが、州によっては、センターを利用している割合が高いところもある。ミネソタとミシガンは、4分の1以上がセンタータイプをつかっていた(29%、28%)。カリフォルニアは、一番その割合が低く９%、ニューヨークやニュージャージーも比較的少なく、それぞれ13%、14%であった。家庭保育の割合は、一番高い割合で使われているのがテキサスで20%、一番低いところはマサチューセッツで９%であった。ほとんどの州において、子どもの3分の1は、親せきによるケアを受けているが、その割合は、特にミシシッピで高く 38%、逆にフロリダ（18%）やミネソタ（14%）では低い。3 歳未満の子どもが、親によるケアを受けている割合はカリフォルニアで一番高く、ミシシッピ、ミシガン、テキサスでは低くなっている（それぞれ19, 21, 21%)。

3，4歳の子どもについては、全体でみると、センタータイプのケアが一番多く使われている。親せきや親によるケアは少ないが、州によってはその割合が高いところもある。ミシシッピ、アラバマは、センタータイプが特に高く（60、58%)、カリフォルニアとウィスコンシンでは低い（31%、33%)。また、3，4歳で家庭保育所を使っている割合は、ウィスコンシンで高く2割、低いのテキサスの7%である。

3、4歳の子どもが親戚によってケアされている割合は、アラバマでもっとも高く24%、ミネソタではもっとも低い11%であった。

ワシントンとマサチューセッツでは、3割が親によってケアされている。アラバマやミシシッピでは、親によるケアの割合が低く、それぞれ8%、10%であった。

一般的に考えられているような、「乳幼児はインフォーマル・ケア、大きい子どもはフォーマル・ケア」を受けている、というの見方は、必ずしもこのデータでは支持されない。また、収入が低い家庭の子どもはインフォーマル・ケアで、収入の高い子どもはセンターなどのフォーマル・ケアを使っている、というパターンも、一貫して見られるものではない。例えば、マサチューセッツでは、収入の低い家庭の子どもがセンターをもっとも多く使っており、カリフォルニアとマサチューセッツでは、収入の高い家庭の子どもに、親によるケアの割合が多くなっている。

次に、保育を受けている時間を比較してみる（表 III-2-3)。全体では、母親が働いている就学前の子どもの 41%が、週 35 時間以上の保育を受けていた。25%が 15～34 時間、16%が 15 時間未満であった。18%は、親以外による保育を受けていなかった。州別にみると、次のようなパターンが見られる。

- 南部の州、ミシシッピ（59%)、アラバマ（56%）では、フルタイムで保育を受けている子どもの割合が一番高い。テキサスも、半数近くであった（46%)。
- カリフォルニア、マサチューセッツ、ワシントンでは、フルタイム保育の割合が低い。週 35 時間以上の子どもは3割以下である。
- カリフォルニアとワシントンでは、親以外の保育を受けていない子ども、受けていても短時間である割合が一番高い。親以外の保育を受けない子どもの割合が一番低いのはミシガンである。

母親が勤務している子どもをみると、全体では、就労している母親を持つ子供の41%がフルタイムで保育サービスを受けているが、フルタイムの母親に限ると、52%である。母親がフルタイムで、子どもがパートタイムで保育を受けている割合は18%である。州別にみると、母親の勤務状況を考慮しても、ミシシッピ（65%）とアラバマ（64%）では、フルタイム保育を受けている子どもの割合が一番高い。この割合が一番低いのは、カリフォルニア、マサチューセッツ、ワシントンである。また、カリフォルニア（33%）とワシントン（27%）では、全く保育を受けていない子どもの割合が一番高い。

年齢別によるパターンをみると、３歳未満の子どもにくらべて、３歳と４歳では、保育を受ける子どもの割合が多くなっている。全体でみると、３、４歳の子どもの方が３歳未満にくらべ、フルタイム保育もパートタイム保育も多くなっている。(44%と 39%、28%と 23%)。

これらのことについて、州別にみると、いろいろな違いが見えてくる。

・乳幼児：　ミシシッピ、アラバマ、テキサスで、３歳未満の子どもの半分が週35時間以上、保育を受けている。反対に、カリフォルニア、マサチューセッツで週35時間以上受けているのは、４人に１人である。小さい子どもで保育をうけていない子どもの割合が一番高いのは、カリフォルニアである（35%)。ミシガン、テキサス、ミシシッピは、その割合が低い（２割以下)。

・３，４歳：　ミシシッピ、アラバマで、フルタイム保育をうけている人が 67%、64%で、カリフォルニア、マサチューセッツ、ワシントンの２倍になっている。ほとんどの州で、３，４歳の母親が就労している子どもで、全く保育を受けていない子どもは、ほとんどいない。アラバマでは、特に低く、４%であった。その他、フロリダ、ミシシッピ、ニューヨークでも、１割に満たない。一方、カリフォルニア、ワシントンでは、２割以上が、親以外の保育を受けてない。

参考文献

Capizzano, Jeffrey, Gina Adams, and Freya Sonenstein, 2000. Child Care Arrangements for Children Under Five: Variation Across States, New Federalism: National Survey of America's Families. Urban Institute, Series B. No. B-7, March 2000.

Capizzano, Jeffrey and Gina Adams, 2000. The Hours that Children Under Five Spend in Child Care: Variation Across States, New Federalism: National Survey of America's Families. Urban Institute, Series B. No. B-8, March 2000.

Ehrle, Jennifer, Gina Adams, Kathryn Tout, 2001, Who's Caring for our Youngest Children? : Child Care Pattens of Infants and Toddlers, The Urban Institute, Occasional Paper Number 42.

表 III-2-1: 子ども・親の属性別、保育サービスの利用状況

	センター	家庭保育	ナニー・ベビーシッター	親戚	親	35 時間以上	平均時間	2つ以上のタイプ利用
全体	22	17	7	27	27	39	25	34
（週平均時間）	33	32	23	26				
子どもの年齢								
1歳未満	15	13	7	32	33	32	22	28
1歳	23	16	9	27	25	40	26	32
2歳	27	21	4	23	26	43	26	38
人種・エスニックグループ								
ホワイト	24	17	8	25	27	36	24	33
ブラック	30	18	3	27	22	58	31	34
ヒスパニック	10	14	5	39	32	34	23	34
教育レベル								
高卒未満	6	12	6	50	27	33	23	21
高卒	22	17	5	30	27	40	25	35
大学	27	17	11	16	30	39	24	34
家庭の収入別								
貧困レベル100%未満	18	17	1	28	35	34	21	26
100～200%以上	16	12	5	39	28	37	23	31
200%以上	25	18	8	23	26	41	26	36

出典:Who's Caring for our Youngest Children? : Child Care Pattens of Infants and Toddlers, The Urban Institute, Appendix, Tables A2 ～A6。

表 III-2-2 保育サービスの利用状況(子どもの年齢別、州別)

	全体	AL	CA	FL	MA	MI	MN	MS	NJ	NY	TX	WA	WI
5歳未満													
センター	**32**	**39**	**19**	36	27	33	**38**	38	**25**	27	35	27	**25**
家庭保育所	**16**	14	16	14	**10**	15	17	13	14	12	11	13	**20**
親戚	**23**	27	26	18	25	28	**13**	**32**	27	24	**27**	19	26
親	**24**	**17**	**34**	26	**32**	20	26	**15**	29	25	20	**33**	24
ベビーシッター	**6**	3	5	7	8	4	6	**2**	4	12	6	8	5
総数	4653	289	288	318	343	322	383	278	343	308	312	305	658
3歳未満													
センター	**22**	*25*	*9*	*24*	*20*	28	*29*	*24*	*13*	*14*	*24*	*21*	*19*
家庭保育所	**17**	17	14	16	**9**	15	19	*17*	14	12	15	13	20
親戚	**27**	30	28	**18**	27	*33*	**14**	*38*	30	*31*	*32*	*23*	28
親	**27**	*24*	*42*	*33*	35	21	29	19	*37*	*32*	21	34	*28*
ベビーシッター	**7**	4	7	9	9	2	9	3	6	11	8	10	4
総数	2588	150	150	169	181	169	206	144	187	160	162	173	354
3歳～4歳													
センター	**45**	*58*	*31*	*54*	*36*	40	*50*	*60*	*44*	*46*	*49*	*37*	*33*
家庭保育所	**14**	9	19	10	**10**	14	15	*8*	15	12	**7**	13	**20**
親戚	**17**	**24**	23	17	22	*21*	**11**	*21*	23	*14*	*21*	*14*	**22**
親	**18**	*8*	*25*	*15*	**27**	18	22	**10**	*16*	*15*	19	**32**	18
ベビーシッター	**6**	2	3	4	6	6	2	0	1	13	5	4	6
総数	2265	139	138	149	162	153	177	134	156	148	150	132	304

出典:Child Care Arrangements for Children Under Five: Variation Across States Urban Institute, Series B. No. B-7, March 2000.

太字:国の平均と有意差がある。(.05) 斜体:その州で、年齢層による有意差がある。(.05)

表 III-2-3 保育サービスの利用時間(子どもの年齢別、母親の勤務状況別、州別)

	全体	AL	CA	FL	MA	MI	MN	MS	NJ	NY	TX	WA	WI
5歳未満全員													
なし	**18**	14	**30**	20	22	**13**	17	14	24	17	15	**26**	17
1～14時間	**16**	12	18	13	**22**	19	16	**10**	14	19	15	16	18
15～34時間	**25**	**19**	23	23	27	28	27	**17**	25	20	23	25	26
35時間以上	**41**	**56**	**29**	44	**29**	40	39	**59**	38	44	46	33	39
総数	4823	286	288	317	339	320	378	277	341	305	309	304	656
母親フルタイム勤務													
なし	**17**	12	**27**	20	21	14	20	13	23	19	14	**33**	13
1～14時間	**12**	10	17	**6**	14	15	10	10	12	10	13	9	17
15～34時間	**18**	14	19	18	24	19	17	12	20	14	22	17	22
35時間以上	**52**	**64**	**38**	55	**40**	52	52	**65**	45	57	52	**41**	49
総数	3399	229	210	228	198	197	258	227	240	197	247	206	451
3歳未満													
なし	***21***	*21*	**35**	*28*	*30*	**15**	*21*	17	***32***	*24*	15	27	21
1～14時間	**17**	11	20	12	*15*	21	18	**10**	12	22	14	15	20
15～34時間	***23***	19	19	21	29	26	26	19	25	***16***	25	26	23
35時間以上	**39**	*49*	**26**	*38*	**27**	38	35	***54***	***31***	*39*	45	32	36
総数	2572	148	150	168	179	168	205	143	186	158	160	173	353
4～5歳未満													
なし	**13**	***4***	**23**	***8***	*12*	11	*11*	9	*11*	*9*	16	**25**	13
1～14時間	**14**	12	16	14	***32***	15	14	9	17	15	16	18	15
15～34時間	**28**	**19**	28	27	25	30	29	**15**	24	*26*	21	22	30
35時間以上	**44**	***64***	33	*52*	**31**	43	45	***67***	*47*	*50*	47	35	42
総数	2251	138	138	149	160	152	173	134	155	147	149	131	314

出典:The Hours That Children Under Five Spend in Child Care: Variation Across States、Urban Institute, Series B. No. B-8, March 2000.

太字:国の平均と有意差がある。(.05) 斜体:その州で、年齢層による有意差がある。(.05)